



平成30年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年12月8日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 福田 幸雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 平成29年12月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年4月期第2四半期の業績(平成29年5月1日～平成29年10月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年4月期第2四半期	2,787	11.2	277	△11.2	284	△9.5	195	△8.0
29年4月期第2四半期	2,505	4.7	312	17.5	314	17.0	212	21.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年4月期第2四半期	11.69		11.64					
29年4月期第2四半期	12.73		12.66					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年4月期第2四半期	5,301	4,637	87.4
29年4月期	5,325	4,603	86.3

(参考) 自己資本 30年4月期第2四半期 4,633百万円 29年4月期 4,597百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
30年4月期	—	0.00	—	—	—
30年4月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年4月期の業績予想(平成29年5月1日～平成30年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,696	4.7	771	△3.7	776	△3.6	541	△5.5	32.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年4月期2Q	17,464,000株	29年4月期	17,464,000株
30年4月期2Q	688,941株	29年4月期	717,741株
30年4月期2Q	16,764,011株	29年4月期2Q	16,734,113株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策や日銀の金融緩和策の継続により、企業収益や雇用環境が改善しており、緩やかな回復傾向で推移しておりますが、米国の政策運営に関する不確実性やアジアにおける地政学的リスクの高まりなどにより、世界経済は先行き不透明な状況が続いております。

当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業という、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、ハード機器や額の売上が好調に推移した一方、主力である遺影写真加工収入は第2四半期は若干想定を下回りました。また、葬儀社向けECサービスの浸透に努めるとともに、新サービスの開発にも注力してまいりました。

利益面では、画像処理部門の件費の増加などにより、粗利率がやや低下しました。また、展示会への出展を増加させたことで広告宣伝費は増加し、サポート部門の人員増により件費や旅費交通費も増加いたしました。

その結果、売上高は1,170,660千円（前年同四半期比103.8%）、セグメント利益は324,953千円（前年同四半期比95.4%）となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真家向け市場は「アスカブック」、一般消費者向け市場は「マイブック」ブランドで展開しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、全国11箇所でのセミナーの実施やワークショップの開催により顧客の囲い込みを進めたほか、展示会の出展や新製品のリリースなどにより、新規顧客の開拓や既存顧客の売上増加に注力してまいりました。その結果、プロフェッショナル写真家向け売上は順調に推移いたしました。

一般消費者向け市場では、効率的なネット広告や各種キャンペーンの実施に加え、SNSの活用やフォト総研での情報提供、新商品や新テンプレートのリリースなどの施策を実施してまいりましたが、競争環境が厳しい中、マイブックの売上は前期実績を下回りました。一方、OEM供給に関しましては、サービスの浸透が進み、売上は順調に増加いたしました。

利益面では、件費や送料等が増加したものの、OEM部門を中心に売上増加に伴い稼働率が上昇したことにより、セグメント利益は順調に増加いたしました。

その結果、売上高は1,559,640千円（前年同四半期比115.2%）、セグメント利益は340,078千円（前年同四半期比140.0%）となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。

当事業におきましては、空中結像を可能にするAIプレートの量産を最重要課題として取り組んでおります。

ガラス製AIプレートにつきましては、十分なコストダウンは図れていないものの、高品質の空中結像を可能にする大型プレートを供給しており、国内外の展示会へ出展したことにより、小ロットではありますが、サイネージや空中操作目的での販売が増加してきております。

樹脂製AIプレートにつきましては、量産性の高い新製法でのトライを継続しており、平成29年10月に開催されましたCEATECではプロトタイプを参考出品いたしました。小型サイズでの結像は一定の評価を得ましたものの、中型サイズでの結像におきましては改善の必要があると判断し、修正ポイントが明らかであることから、再度改良型の金型製作にトライしており、来年の早い時期にサンプル供給を実現したいと考えております。

マーケティング面につきましては、第1四半期における国内1か所、海外2か所での展示会出展に加え、第2四半期では展示会CEATECに当初予定より大きな規模で出展いたしました。樹脂製AIプレートの参考出品に加え、大型のガラス製AIプレートとユニークな技術やコンテンツを組み合わせた4種類の展示を行い、特に等身大の空中結像展示は大きな反響を得ました。この他、第3四半期にはドバイでの展示会出展を計画しております。

費用面では、国内外の展示会に積極的に出展した結果、広告宣伝費が大きく増加しました。また、樹脂製AIプレートの量産実現に向けて集中的に研究開発を行い、研究開発費が増加いたしました。その他、人員増強により人件費や、海外での旅費交通費、および特許関連費用も増加いたしました。

その結果、売上高は58,957千円（前年同四半期比253.3%）、セグメント損失は149,960千円（前年同四半期は48,481千円の損失）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、各事業において増加し2,787,097千円（前年同四半期比111.2%）となりました。利益面につきましては、パーソナルパブリッシングサービス事業においてセグメント利益が順調に伸長したものの、エアリアルイメージング事業におきまして積極的に広告宣伝費や研究開発費を計上したため、経常利益は284,411千円（前年同四半期比90.5%）、四半期純利益は195,931千円（前年同四半期比92.0%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ23,521千円減少し、5,301,725千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が38,508千円増加する一方で、現金及び預金が31,602千円、無形固定資産が17,527千円減少したことによるものであります。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ57,760千円減少し、664,041千円となりました。これは主に、未払法人税等が40,970千円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ34,239千円増加し、4,637,683千円となりました。これは主に、四半期純利益を195,931千円計上した一方で、剰余金の配当による減少167,462千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ36,602千円減少し、1,636,648千円となりました。なお、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果獲得した資金は、241,517千円（前年同四半期は249,127千円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益283,860千円、減価償却費147,691千円を計上した一方、法人税等の支払額123,001千円を計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、116,699千円（前年同四半期は75,353千円の使用）となりました。これは主に、印刷関連の機械装置など有形固定資産の取得83,792千円、ソフトウェアの取得など無形固定資産の取得26,209千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は、161,556千円（前年同四半期は165,083千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払166,655千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月9日に発表いたしました平成30年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当第2四半期会計期間 (平成29年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,278,251	2,246,648
受取手形及び売掛金	686,517	725,025
商品及び製品	166,123	176,641
仕掛品	12,038	13,735
原材料及び貯蔵品	56,972	60,771
その他	112,648	92,161
貸倒引当金	△3,163	△4,423
流動資産合計	3,309,387	3,310,560
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	499,750	503,550
機械及び装置(純額)	422,616	394,193
土地	432,702	432,702
その他(純額)	150,493	168,194
有形固定資産合計	1,505,562	1,498,640
無形固定資産	211,874	194,346
投資その他の資産	298,423	298,177
固定資産合計	2,015,859	1,991,164
資産合計	5,325,247	5,301,725
負債の部		
流動負債		
買掛金	118,905	119,664
未払法人税等	143,270	102,300
賞与引当金	129,000	136,400
その他	317,028	293,027
流動負債合計	708,204	651,392
固定負債		
退職給付引当金	6,482	6,482
その他	7,115	6,166
固定負債合計	13,597	12,648
負債合計	721,802	664,041
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	3,803,101	3,826,903
自己株式	△309,764	△297,334
株主資本合計	4,590,222	4,626,453
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,579	7,301
評価・換算差額等合計	7,579	7,301
新株予約権	5,642	3,928
純資産合計	4,603,444	4,637,683
負債純資産合計	5,325,247	5,301,725

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年10月31日)
売上高	2,505,452	2,787,097
売上原価	1,255,955	1,366,401
売上総利益	1,249,496	1,420,695
販売費及び一般管理費	936,763	1,142,996
営業利益	312,733	277,699
営業外収益		
受取利息	540	294
受取配当金	611	610
受取手数料	279	232
為替差益	—	736
保険金収入	—	3,991
その他	700	846
営業外収益合計	2,131	6,711
営業外費用		
為替差損	669	—
営業外費用合計	669	—
経常利益	314,196	284,411
特別損失		
固定資産除却損	12	550
特別損失合計	12	550
税引前四半期純利益	314,183	283,860
法人税等	101,192	87,928
四半期純利益	212,991	195,931

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	314,183	283,860
減価償却費	148,524	147,691
貸倒引当金の増減額(△は減少)	921	1,258
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,000	7,400
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△151	—
受取利息及び受取配当金	△1,151	△904
為替差損益(△は益)	7	△135
固定資産除却損	12	550
売上債権の増減額(△は増加)	△32,423	△38,508
たな卸資産の増減額(△は増加)	△46,023	△16,014
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,893	758
未払消費税等の増減額(△は減少)	△11,231	△36,107
その他	△5,721	13,893
小計	361,050	363,743
利息及び配当金の受取額	786	775
法人税等の支払額	△112,710	△123,001
営業活動によるキャッシュ・フロー	249,127	241,517
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5,000	△10,000
定期預金の払戻による収入	5,000	5,000
有形固定資産の取得による支出	△34,603	△83,792
無形固定資産の取得による支出	△39,724	△26,209
貸付金の回収による収入	720	720
その他	△1,745	△2,417
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75,353	△116,699
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△165,839	△166,655
自己株式の処分による収入	756	6,048
その他	—	△948
財務活動によるキャッシュ・フロー	△165,083	△161,556
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	135
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,683	△36,602
現金及び現金同等物の期首残高	1,313,143	1,673,251
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,321,826	1,636,648

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージジ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,127,753	1,354,420	23,279	2,505,452	—	2,505,452
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,127,753	1,354,420	23,279	2,505,452	—	2,505,452
セグメント利益 又は損失(△)	340,540	242,891	△48,481	534,950	△222,216	312,733

(注) 1 セグメント利益の調整額△222,216千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期累計期間(自 平成29年5月1日 至 平成29年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージジ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,170,660	1,559,640	56,797	2,787,097	—	2,787,097
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	2,160	2,160	△2,160	—
計	1,170,660	1,559,640	58,957	2,789,257	△2,160	2,787,097
セグメント利益 又は損失(△)	324,953	340,078	△149,960	515,071	△237,371	277,699

(注) 1 セグメント利益の調整額△237,371千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。